
第2回標準マスター改善WG（改善・共用化サブWG共催）議事録

- 日時：10月11日（木）15時30分～17時30分
- 場所：MEDIS-DC 会議室
- 出席者：※敬称略／順不同
野口貴史（MHLW）、康東天、三宅一徳、清水一範、山田修、堀田多恵子、真鍋史朗、久野義和、山崎雅人、小須田宰、板橋光春、安藤純一、宮下弘信（以上、JSLM）、大江和彦、大原信、山上浩志（以上、JAMI）、佐守友博（JCCLS）、渋谷尚彦、松本一弘（以上、JACRI）、千葉信行、川田剛（以上、JAHIS）、箕輪正和、小林直哉、橋本出（以上、JRCLA）
事務局：山田悦司（JSLM）、田中一宏、池田香代子（以上、MEDIS）
- 欠席者：海渡健、石黒厚至（以上、JSLM）、武隈良治（MEDIS）、村上和生（JRCLA）
- 配布資料：第二回標準マスター再構築WG 会議議事次第
資料1； 標準マスター改善サブWG 資料
資料2； 標準マスター共用化サブWG 資料
資料3； 今後のスケジュール
資料4； 臨床検査項目標準マスターのホームページについて

【表記についての補足】

MHLW	厚生労働省
JSLM	日本臨床検査医学会
JAMI	日本医療情報学会
JCCLS	日本臨床検査標準協議会
JACRI	日本臨床検査薬協会
JAHIS	保健医療福祉情報システム工業会
JRCLA	日本衛生検査所協会
MEDIS	医療情報システム開発センター

【開催事項】日本臨床検査医学会学術総会（国立京都国際会館）でのワークショップについて（真鍋）

- ・ 11/30（金）-12/1（土）に、JLAC10のワークショップを開催する予定である。
- ・ JLAC10の歴史、標準化のメリット、事例紹介、現在の検討内容、質問コーナーの設置等のテーマで検討を進める。
- ・ 必要に応じて、各団体の協力をお願いしたい。

【開催にあたって】

- ・ 本日の共催会議開催の目的は、両サブWGの進捗状況の確認と今後の検討課題について共通認識を得ることである。（康）

【議題2 共用化サブWG進捗報告、および重要課題の方向性について】

- ・ 標準マスター共用化サブWG資料（資料2）に基づき、同サブWGの進捗状況、検討の方向性について説明がなされた。（山田修）

- *****
- ・ 測定法について、協力施設・JLAC10 の記載内容が異なる。一般的な方法名にまとめていくにはどうしたらよいか。(山田修)
 - ・ JACRI が添付文書の情報をまとめた冊子を発行している(体外診断用医薬品集 2012 年版)。日常的にメンテナンスされており、この冊子を有効利用するとよい。(渋谷)
 - ・ 冊子も参考にして、今後の作業とは別に検査法名称の整理の仕方の道筋を検討して、意見をお聞きしたい。(山田修)
 - ・ 診療報酬、地域連携と合致できるレベルでまとめるとよい。(康)
- *****
- ・ 共用化サブ WG の成果資料(頻用コード表サンプルレイアウト)では、施設内での運用事例から正式(推奨) JLAC10-17 桁が容易に検索できることを目的にして検討を進める。また、6 桁程度の運用コードを必須情報としている。(山田修)
 - ・ 資料中、運用事例に検査方法が抜けている。機器メーカーの左側くらいに追加したらどうか。(小須田)
- *****
- ・ 頻用コード表において、「分析物」・「材料」コードが異なると、運用コードは異なるか。また、一つの運用コードに運用事例が複数存在する可能性はあるか。(大江)
 - ・ 現状では、そのように考えている。但し、それぞれの粒度の問題があり、頻用コード表への記載内容は、引き続き検討していく。(山田修)
 - ・ 頻用コード表の第一回配布分は、分析物コード先頭「3」を対象とし、項目数を絞って展開する。(山田修)
- *****
- ・ 頻用コード表の対象項目は、保険未収載項目は多少漏れてもよいが、保険収載項目は全て網羅してほしい。(大江)
 - ・ その方向で検討している。(山田修)
 - ・ レセプトコードも頻用コード表に合わせて、記述されていると有難い。(大江)
 - ・ 第一回の委員会で保険は考慮しないということであったので、現状ではレセプトコードは考慮していない。(山田修)
 - ・ MEDIS にレセプトコードとの紐付けをお願いできないか。(康)
- *****
- ・ 頻用コード表において、使用機器・使用試薬等は、コード化されるのか。(大江)
 - ・ コード化していない。今回の試薬の調査は、製造承認番号としたが、製造承認番号は単一に定義できるか。(山田修)
 - ・ 単一にするなら、製造承認番号よりも JAN コードの方がよい。(渋谷)
 - ・ 今回の調査は、製造承認番号のままにしておきたい。(山田修)
- *****
- ・ 以前に、JSLM にてパブリックコメントを募集して名称標準化(検査項目、検査法)に取り組んだが、その結果はどうなったのか。(真鍋)
 - ・ 厚生労働省に提出して、検査項目名称については標準化(案)を4月の診療報酬改定に織込んだ。しかし、修正すべき点があるとのこと指摘から公開はしていない。また、現段階では公開の予定はない。(山田悦)
 - ・ 名称の設定の考え方をシステムティックにまとめる必要がある。JCCLS・JSLM で改めて検討する必要がある。(佐守)

- ・ 今回の検討に、JSLM が検討した標準名称は対象としない。(山田修)

【議題 1 改善サブ WG 進捗報告、および重要課題の方向性について】

- ・ 改善サブ WG 資料（資料 1）に基づき、同サブ WG の進捗状況、検討の方向性について説明がなされた。(清水)
- ・ 資料 2 の 19 ページの案 1・2 は JLAC10 の構造を変えない考え方、案 3・4・5 は構造を変える考え方である。また、当期の作業としては、案 1・2 は提言内容をクリアにできるが、案 3・4・5 は案を列挙して、絞り込む範囲と思う。(清水)

〔JLAC10 構造・体系の考えかた〕

- ・ JLAC10 の構造を変えた場合、既に導入している施設のシステムに問題はないか。(山崎)
- ・ JLAC10 を見直しても、直ぐに移行すべきとの提言を出すつもりはない。今後の方向性を示す提言になる。(清水)
- ・ 何らかのシステム変更が必要である。また、構造を変える・変えないに係わらず、既に導入している施設では移行作業が必要である。(川田)
- ・ 移行は、短期間で実施できるものではなく、システムの切り替え時等に合せての実施になり、移行期間は長い。(清水)
- ・ 基本的には、大きな移行作業が必要になる桁割りの変更はしない方向とする。(清水)

- ・ 案 2 に比べて案 3 にする利用者のメリットは何か。(大江)
- ・ 分析物だけは全て拾えず、識別コードも複雑である。JLAC10 の専門家でなくとも、検査関係者が直ぐに採番できるような体系にしたい。(清水)
- ・ 採番のしやすさだけか。(大江)
- ・ 案 2 は、JLAC10 の構造は変えず、運用を変える。案 3 は、運用を変えるなら、JLAC10 の構造も変える。という意味ではないか。(康)
- ・ 利用者からすると案 2 に留め、採番に工夫してもらいたい。案 2 にしても以前のコードとの重複は無いようにする必要がある。(大江)

- ・ JLAC10 の新しい 9 桁で医療関連施設が基幹システムで使用するローカルコードにできないか。(康)
- ・ JLAC10 とローカルコードは明確に分けて考えた方がよいのではないか。(清水)
- ・ 共用化サブ WG の頻用コード表の運用コードがローカルコードになる可能性がある。ただ、同じ検査項目でも通常検査と緊急検査ではローカルコードが異なるという運用もある。(大江)
- ・ なかなかそこまでは踏み込めない。(康)

〔全般〕

- ・ 今やろうとしている改善は実際の運用に合わせる形になってしまっている。地域連携を対象にするだけであれば運用コードで足りるだろうし、JLAC10 の存在価値として、別な何かをターゲットにしないといけないのではないか。データの二次利用、データ解析では検査法等のデータの細かさは精度管理に対応できるくらいの粒度が必要であるし、仮に日本で上手くやれたとして、それを海外に持っていこうとした場合には海外の標準コードとの連携も検討する必要があるのではないか。(真鍋)

〔海外の標準コードとの連携〕

- ・ 海外の標準コードと JLAC10 は、基本的な体系が異なる。本来は、ハーモナイズする必要があるが、個別に対応表を作成する範囲に留めるべきであろう。(康)
- ・ 以前に JSLM で LOINC と JLAC10 の突合を試みたが、難しかった。(山崎)
- ・ 何故、日本は JLAC10 だという指摘が海外からある。JLAC10 が認められるレベルへの改善が必要である。(千葉)
- ・ JSLM の項目コード委員会では JLAC11 くらいの議論がもう有っても良いかもしれない。JLAC10 も長い蓄積があるため、おいそれとは変えられない。(康)

〔検査法〕

- ・ 測定法コードは圧倒的に足りないのが現状。システム的には難しい話もあったが、アルファベットを導入することにより、今のコード体系でいけるのではないか。(山崎)
- ・ 測定法コード(3桁)に検査機器の情報を含めて考えてはどうか。(真鍋)
- ・ JLAC10 の 17桁の範囲ですべてのことをするのは不可能で、できること・できないことを明確にして作業を進めていきたい。機器の情報は外付けでも良いと思っている。(清水)
- ・ 二次利用で細かいところを求めるならば、階層構造を持ったコード体系でないと難しい。そこまでいなくても、プルダウン化した項目から選択する作業にすることで、二重採番や誤採番は大幅に減らせる。(渋谷)

【議題 3 今後のスケジュール】

- ・ 資料 3 に基づき、今後のスケジュールについて説明がなされた。(山田悦)

【議題 4 臨床検査項目標準マスターのホームページについて】

- ・ 資料 4 に基づき、JSLM・MEDIS ホームページの標準コードについての利用状況について説明がなされた。(山田悦)

【まとめ】

- ・ 改善サブ WG
 - ： 今年度については、1-2個の課題に絞って議論して提言につなげていく。(康)
 - ： 今後、各コードの要素(例;アルファベットを加えるか否か)についての検討を進めていきたい。(清水)
- ・ 共用化サブ WG
 - ： 頻用コード表の対象範囲を確定させて作業を進めていく。(康)

以上
(記録 山田悦、田中、山上)